

(社) 日本建築学会 近畿支部
2011 年度第 1 回空気環境部会議事録 (案)

日時：2011 年 5 月 13 日 (金) 17:00~19:50

場所：日本建築学会近畿支部会議室

出席者：阿部、井上、甲谷、古賀、萬羽、檜崎、山中 (主査)、
桃井 (幹事)、東 (実) (幹事、記録)

資料：・議事次第	資料 1-1
・2010 年度第 6 回空気環境部会議事録(東幹事)	資料 1-2
・24 時間換気システムの維持管理について (東幹事)	資料 1-3
・24 時間自然換気住宅詳細図	資料 1-4
・24 時間自然換気住宅換気量の試算結果 (山中主査)	資料 1-5
・最近の建築物換気に関する実態 (古賀委員)	資料 1-6

議事：

- ・ 前回議事録 (2010 年度第 6 回) が承認された。[資料 1-2]
- ・ 平成 23 年度部会員の異動と部会員名簿の更新についての報告があった。

1. 最近の建築物換気に関する実態について

- ・ 資料 1-6 に基づき、プレゼンテーションが行われた。質疑の一部を以下に示す。
 - ZAB (ネット・ゼロ・エネルギービル) に関するエネルギー試算条件の前提に関する質疑応答があった。
 - 潜熱熱分離空調に関する質疑に対し、空調経路の説明および圧縮の動力が少なくすむことによる省エネ化のしくみについての応答があった。
 - デシカントの低温再生用ロータの吸着メカニズムの従来型と違いについての説明があった。
 - CO₂ 制御および人検知による換気システムのメカニズムについての質疑応答があった。

2. 24 時間自然換気住宅換気量の試算結果について

- ・ 資料 1-5 に基づいた議論の一部を以下に示す。
 - 15mm 厚、3000mm×3000mm の壁が 4 面の居室を想定し、24 時間自然換気住宅の測定データをもとに、冷房時・暖房時における換気量の試算データが示された。
 - 外気温度・室内温度・壁初期温度・ダクト内初期温度を変化させ比較したところ、暖冷房時ともに換気量の変化は初期短時間のみ認められ、その後は一定になる。
 - 換気量は夏期に大きく、冬期に小さくなる傾向があり、室内側を断熱し通気層側の断熱を小さくすることで、換気を促進すると予測される。

3. 24 時間換気システムの維持管理について

- ・ 資料 1-3 に基づいて、今後のアンケート調査に関する進め方についての報告があった。

4. 今年度の活動計画について

- ・ 昨年度支部研究費助成を受けた内容のシンポジウムを 3 月開催にむけて準備する。「住宅換気の現状と今後のあり方 (仮題)」会場はキャンパスポート大阪等を予定。
- ・ 部会で検討中の内容に、外部からの話題提供を加えた企画とする。

例えば、

- ・ 24 時間機械換気の義務化に向けた活動に関わった方から経緯等の話題提供
- ・ 関西以外の他の地域で自然換気を推進している建築家からの事例報告

- ・換気設備のメンテナンスに携わる方からの実態と課題に関する話題提供 など

具体案については、本日の意見をもとに主査・幹事間で素案を作成し、次回部会にて検討することとする。

次回部会 日時：7月7日（木）17:30~20:00
場所：近畿支部会議室
内容：換気関連解析・調査の進捗状況の報告と検討
シンポジウムの企画について

以上